
[成果情報名] 中生の晩熟期で高温耐性を有する多収・良食味の水稲「ちくし90号」
[要約] 水稲新品種候補「ちくし90号」は、「ヒノヒカリ」より5～7日程度晩熟で、多収である。高温耐性は‘強’で、玄米の外観品質が良好で検査等級に優れ、食味は「ヒノヒカリ」より優れる。
[キーワード] 水稲、中生の晩、高温耐性、多収、良食味
[担当部署] 農産部・水稲育種チーム、筑後分場・水田高度利用チーム
[連絡先] 092-924-2937
[対象項目] 水稲 [専門項目] 育種 [成果分類] 新技術

[背景・ねらい]

福岡県の水稲生産においては、夏期の高温による玄米品質の低下が問題となっている。特に、作付面積の4割程度を占める中生品種「ヒノヒカリ」では、夏期の高温に加え、作付集中による刈り遅れが品質低下を招く要因となっている。また、共乾施設では収穫物の荷受期間が早生品種「元気つくし」と競合する。そのため、「ヒノヒカリ」より高温耐性、多収、良食味で、1週間程度晩生の品種が望まれている。

そこで、それらの要望に応えうる水稲新品種を育成する。

(要望機関名：水田農業振興課 (H21、H25)、朝倉普 (H21)、久留米普 (H25)、八女普 (H21、H25))

[成果の内容・特徴]

「ちくし90号」は、平成18年に「西海250号 (後のにこまる)」を母、「ちくし64号 (後の元気つくし)」を父として人工交配を行った組合せに由来する。

「ヒノヒカリ」と比較して、次のような特徴がある。

1. 出穂期は5～6日、成熟期は5～7日遅い「中生の晩」に属する粳種である。稈長は同程度で、穂数はやや少ない。収量は8～10%多収で、千粒重は重い。玄米の外観品質は良好で、検査等級は優れる (表1、図1)。
2. 炊飯米の食味は、外観、味、粘りともに良好で、良食味である。(表2、図1)。
3. 高温耐性は‘強’で優れ、葉いもち圃場抵抗性は‘弱’、穂いもち圃場抵抗性は‘やや弱’である。穂発芽性は‘中’で、縞葉枯病には同程度に罹病する (表3)。

[成果の活用面・留意点]

1. 品種登録 (平成29年10月6日 品種登録番号第26272号)、準奨励品種に採用 (平成27年3月24日)。
2. 県内の山ろく地～平坦地に適する。
3. 「ヒノヒカリ」に替えて普及を図る。
4. いもち病には弱いため、種子消毒並びに適期防除を徹底する。

[具体的データ]

表1 生育特性、収量性および品質

試験場所	系統名 品種名	出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂数	倒伏	精玄米重	同左比率	千粒重	検査等級
		(月. 日)	(月. 日)	(cm)	(cm)	(本/m ²)		(kg/a)	(%)	(g)	
農産部	ちくし90号	8.30	10.07	76	20.1	284	0.0	53.5	108	24.6	1.9
	ヒノヒカリ	8.24	9.30	76	18.7	308	0.0	49.7	100	23.4	2.4
筑後分場	ちくし90号	9.02	10.13	80	20.6	330	0.0	58.6	110	23.5	2.3
	ヒノヒカリ	8.28	10.08	81	19.8	380	0.1	53.2	100	22.7	3.8

注)1. 平成24~26年。
 2. 倒伏：0(無)~5(甚)、検査等級：1(1等上)~9(3等下)。
 3. 苗の種類：農産部ポット成苗、筑後分場稚苗。

表2 食味特性

試験場所	系統名 品種名	総合	外観	味	粘り	硬さ
農産部	ちくし90号	0.23	0.40	0.15	0.15	0.02
	ヒノヒカリ	-0.07	-0.01	-0.13	0.07	-0.03
筑後分場	ちくし90号	0.32	0.28	0.30	0.37	-0.03
	ヒノヒカリ	0.04	0.14	0.04	0.16	0.22

注)1. 平成24~26年。
 2. 食味官能試験は農産部産コシヒカリを基準(0.00)に評価。

表3 耐病性、穂発芽性および高温耐性

系統名 品種名	圃場抵抗性		縞葉 枯病	穂発芽性	高温耐性
	葉もち	穂もち			
ちくし90号	弱	やや弱	罹病性	中	強
ヒノヒカリ	弱	やや弱	罹病性	難	弱

注)1. 平成24~26年度。
 2. 高温耐性は水稻高温耐性評価施設における判定。

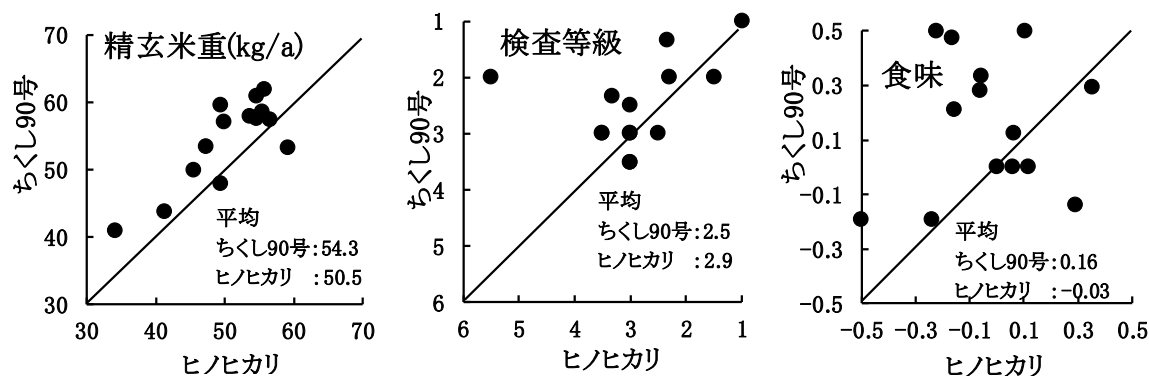


図1 ちくし90号とヒノヒカリの主要形質の比較

注) 農産部、筑後分場および奨励品種決定調査現地試験(平成24~26年)の成績。

[その他]

研究課題名：資源低投入・低コスト稲作に向く品種の育成、温暖化に対応した多収・耐病性水稻品種の育成

予算区分：経常

研究期間：平成21~26年度(平成21~25年、平成26~30年)

研究担当者：和田卓也、井上敬、坪根正雄、尾形武文、宮原克典、濱地勇次、古庄雅彦、宮崎真行、山口修、石橋正文、佐藤大和、松江勇次